年号	形式	概要
昭和29 西暦1954		自動復帰形試作
		西部電気工業㈱バルブコントロール製作販売開始
1955	LT	自動復帰形発売 一重スリーブ機構
1958	LTB	手動復帰形
1959	LTC	手動復帰形
1961	LTD LTE	小形弁用手動復帰形
1963	LTG	手動復帰両トルク形
1965	LTK・LTM	LTHを小形化皿バネ採用
1967	LTKD	LTKの自動復帰形
1968	KRPS	手動復帰形 二重スリーブ機構
	BRD	二重スリーブ形ニ次減速機
1970	LTMD	自動復帰形 二重スリーブ機構
1971	MBR	小形ロータリ用差動ギヤ式
1975	SRB	超小形ロータリ形
1979	SEB	高炉弁用差動ギヤ方式
1980	SG	スパーギヤ二次減速機
	BRF	BRDの後継機種
1981	LEC・SRD	ベベルギヤ二次減速機
		自重降下式緊急遮断ゲート
1982	LTRH LTRM	電力用小形手動（電動）復帰形
1983	LBH	超小形ロータリ形
1984	S	手動式ベベル減速機
1986	LA-005	電力向け小型バルブコントロール
平成元年1989	SRH	電力向けバルブコントロール
	LRH	小型ボールバルブ専用アクチュエータ
1992	LRH-ED	手動ギヤラック式ゲート駆動装置
2000	SRJ	手動ワイヤドラム式ゲート駆動装置
2002	BRL	SREの後継機種
2003	LPH	BRFの後継機種
2004	LPS	手動ピンラック式ゲート駆動装置
	LPM	小形ピンラック式ゲート駆動装置
2005	Semflex-	ピンラック式ゲート駆動装置
	Semflex-	インテリジェント形アクチュエータ
2006	Semflex-	インテリジェント形アクチュエータ
2009	BR	緊急遮断用ピンラック式ゲート駆動装置
	LC	BRLの後継機種
2010	Semflex-A	チェーン式ゲート駆動装置
		インテリジェント形 世界最小のアクチュエータ
	LK	可動ラック式ゲート駆動装置

改良点

- トルクスイッチ　片　側→開閉両側
- トルクスプリング　コイルバネ→皿バネ
- モータ特殊フランジ→ISOフランジ
- 潤滑オイル→グリース
- ギヤケーススラストメンバ→Bハウジン
- 鋳鉄スイッチカバー→鋼板プレス
- ハンドル→ハンドルスリップ付
- 切替クラッチ→ソフトクラッチ

軽量コストダウン

主な納入実績

- 九州電力㈱築上火力
- 大阪市築島浄水場　12台
- 官公庁（浄水場中心）に普及
- 高炉ガス弁用
- LTG…01 ソ連向防爆形 6000台
- 北電奈井江 84台
- 原電東海 8台
- 動燃大洗 41台
- 苫小牧共火 48台
- 九電唐津三号 100
- 九電川内一号 100
- 九電玄海一号 59台
- 北電伊達一号 57台
- 動燃大洗 18台
- 九電相浦新二号 100
- 中国電下関二号 100
- 九電豊前一号 100
- 九電玄海原発二号 100
- 下パイ一～五号 100
- 九電新小倉三号 320
- 四電伊方原発二号 9台
- 九電豊前二号 100
- 中国向電力輸出 420
- 東電新東京三号 12台
- 鹿島共火二号 40台
- 中国宇山一・二号 100
- 電発松島一・二号 100
- 関電（テレクトロン） 68台
- 九電新小倉四号 100
- 鹿島共火四号 99台
- 九電川内原発一号 99台
- 常盤共火勿来八号 71台
- 関電高浜原発三・四号 40台
- 中電第二知多一・二号 60台
- 九電新小倉五号 100
- 九電川内原発二号 45台